

軟性素材の固定について



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 講師

佐々木 重昭 Sasaki Shigeaki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 軟性素材・固定・スポーツ



研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

近年、学校教育の現場や趣味などでおこなう社会人のスポーツコミュニティ、生涯スポーツ競技、障がい者スポーツ競技など、様々なスポーツシーンに関わる人が多く見られる。

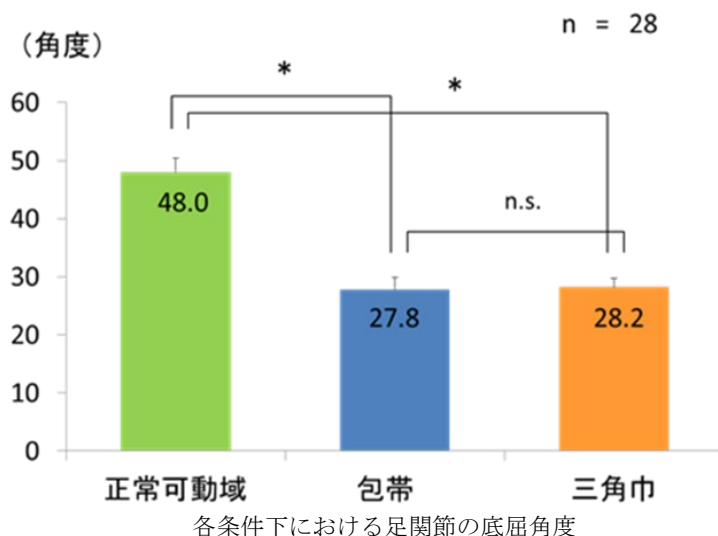
スポーツ安全協会や日本スポーツ振興センターなどがおこなっているスポーツや災害時の外傷の統計で、足関節の捻挫は特に多いとされている。全スポーツ外傷のなかで捻挫が 36%と、骨折 30%よりも多く、足関節捻挫は 10~15%を占めるといわれている。

その足関節の捻挫の固定の応急処置として、接骨院や整形外科の HP、災害対策の HP や応急手当の教材書物で三角巾を用いた固定が紹介されている。その一例として、三角巾固定が実用性に近いものであることの報告がなされており、捻挫を想定した応急処置として信頼できる材料としている。

足関節捻挫の固定では、歩行動作の足関節底屈制限をかけることが重要とされている。足関節捻挫を想定した場合、仮説として包帯固定と三角巾の固定が有効であるか、包帯固定やその他の軟性材料との比較を実施し、固定時の可動域に差がみられなければ、あらゆる固定材料での可能性を見出すことができる。

計測方法は既往歴のない成人男女、28 名(男性 18 名、女性 10 名)足関節の底屈角度をみる。

1. 正常可動域 : 背臥位でベッドから足関節を出した状態で足関節の可動域(底屈角度)を計測
2. 包帯固定 : 5 裂包帯を良肢位で固定、足関節底屈角度を計測
3. 三角巾固定 : 三角巾を八つ折り帯状(緊急処置法)を良肢位で 2 周ほど施し底屈角度を計測



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

スポーツ安全協会や日本スポーツ振興センターなどがおこなっている、スポーツや災害時の外傷の統計で足関節の捻挫は特に多いとされている。全スポーツ外傷のなかで、骨折は 30 %だが、それよりも捻挫が 36%と多い。足関節捻挫は 10~15%を占めるといわれている。その足関節の捻挫の固定の応急処置として接骨院や整形外科の HP、災害対策の HP や応急手当の教材書物では必ずしも硬性素材や硬質材料を使った治療方法ではなく、身体に負担がかからない、軟性素材や身体にフィットした材料を用いた固定が紹介されている。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【論文】

- ・「足関節捻挫の包帯固定と三角巾固定の違い」